

神近牧男先生を偲ぶ

木村玲二

(鳥取大学・乾燥地研究センター)

神近先生は、農業気象学・環境調節学・乾燥地気象環境学を専門とされ、特に砂丘地域の農業利用に関する研究に長年取り組まれました(神近・松田, 1981; 神近ら, 1981)。海岸砂丘における保安林の造成と樹木の成長に伴う局地気象の変化を解析し、天然記念物鳥取砂丘における風気候と砂面変動に関する研究を継続的に進めてこられました(岡田ら, 2000; 高山ら, 2009)。こうした経験から、乾燥地・半乾燥地における農業開発に研究対象を発展させ、自然環境の評価や空气中水蒸気固定の設計などの研究も推進され(石川ら, 1996)、日本における砂丘・乾燥地農業研究の黎明期において、多くの業績を残されました。

鳥取大学農学部附属の砂丘利用研究施設が「乾燥地研究センター」として発足した後は、副センター長、センター長を務められ、国立大学法人化以降の運営や将来計画の立案などにも尽力されました。1994年10月には「砂漠化対処条約」に日本を含む86か国が署名し、深刻な干ばつや砂漠化に直面する国や地域が砂漠化に対処するため、先進締約国が支援を行うことになりました。こうした時代を見越した先生のご尽力が、わが国の乾燥地研究の国際的な発展の一翼を担ったと思います。

鳥取大学を定年・退職後は、(現)公立鳥取環境大学の副学長として設立初期の運営に携わり、地域の発展に寄与されました。さらに、自然公園財団鳥取支部・鳥取砂丘ジオパークセンターにおいて、山陰海岸ジオパークのジオガイドとしても活動し、世界ジオパーク認定に際しても大きな役割を果たされました。こうした鳥取砂丘の保全と発展に尽力された功績を認められ、2015年に「自然公園関係功労者環境大臣表彰」を受賞され、2021年には「瑞宝中綬章」を授与されました。

神近先生には多くの教え子があり、大学等の教員や研究者をはじめ、たくさんの優秀な人材を世に輩出しました。教え子たちは皆、先生の優しさや笑顔、人柄、そしていつ来るかわからないダジャレを懐かしみ、ご退職後も鳥取を訪れてくれました。私は、修士の学生としてはじめて先生の研究室の門をたたきましたが、正直、先生から本格的な研究指導をされたという記憶はありません。これは決して否定的な意味ではなく、先生は表立って指導されることは少なかったものの、陰ながら研究環境を整え、学生が自分のやり方で取り組めるよう、何より自ら考えながら研究を進めていけるようご指導くださっていたのだと、今では感じています。こうした先生の気配りは私が教員になった後も一貫していました。当時、乾燥地研究のフィールドとしていた中国内陸部に出張した際、毎晩のように行われる酒宴では私の代わりに飲んで盛大に場を盛り上げ、人知れずトイレで苦しんで



(愛車で圃場に、1984年)

いたことは同行した誰もが知っていました。その後10年間にわたって中国との研究交流が続いたのは、こうした先生の人徳があってこそだと思います。こうした“表には出ない”ものも含めて、数々のご恩を受けたのは、私一人に限ったことではないはずです。

神近先生は、国内外を問わず、多くの人々から尊敬される偉大な研究・教育者でした。先生の偉業と優しさに心から敬意を表すとともに、ご冥福をお祈りいたします。

引用文献

- 石川将之・大槻恭一・神近牧男, 1996: 太陽熱および地気温差を利用した蒸留システム. 農業土木学会誌 **64**, 225-230.
- 岡田周平・松原由佳・大槻恭一・神近牧男, 2000: 鳥取砂丘における風環境と砂丘砂の粒度分布の関係. 日本砂丘学会誌 **47**, 12-19.
- 神近牧男・松田照美, 1981: マルチによる砂丘地の地温調節について. 砂丘研究 **28**, 27-34.
- 神近牧男・松田照美・早川誠而, 1981: 砂丘地の微気象特性 (I). 鳥取大学砂丘研究所報告 **20**, 1-9.
- 高山成・矢野裕幸・木村玲二・神近牧男, 2009: 鳥取砂丘の草原化に対する景観保全活動に伴う植生分布の変遷と砂面変動のモニタリング. ランドスケープ研究 **2**, 67-73.

<https://agrmnet.jp/wp-content/uploads/2025-H-3.pdf>

2025年5月22日 受付

Copyright 2025, The Society of Agricultural Meteorology of Japan